

JA全農ちば 営農情報集

2022

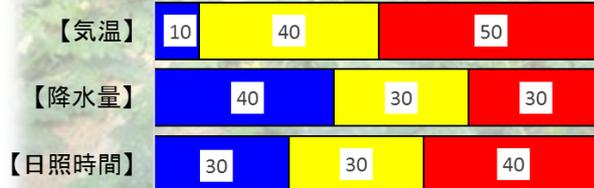
4

今月の情報

1. 水稲 田植え前後の管理について
2. 園芸野菜 病害虫防除情報
3. 果樹(ナシ)病害虫防除情報

4月の気象について（気象庁 3/31 発表 長期予報（1か月）から）

4月は、気温がかなり高く推移する予報となっているため、害虫が急増する可能性があります。圃場の様子をしっかりと確認し、防除が手遅れにならないように十分注意しましょう。



凡例 ■: 低い ■: 平年並 ■: 高い

（長期予報は毎週木曜 14 時 30 分に発表されます。週予報とともに確認し今後の栽培管理の計画を立てましょう）



<農薬の残留に注意！>

- ① 農薬の使用基準は守りましょう！
- ② 周囲への農薬飛散「ドリフト」対策を行いましょう！
- ③ 散布器具は毎回しっかりと洗浄しましょう！
- ④ 農薬散布記録簿への記帳は忘れずに！

注意とお願い

農薬登録内容は掲載時点の情報です。農薬を使用する際に必ず最新の登録内容をご確認ください。

水稲 田植え前後の管理について

J A全農ちば
営農支援部

今年も稲作が始まり、代かきや育苗管理作業で忙しくなります。気象庁発表の1ヶ月予報では、気温は平年より高めと予想されています。

育苗中、急な温度変化によって苗に「ヤケ」等が発生する心配があります。特に被覆を新しく張り替えたハウスは注意が必要です。

近年、気象の変化が極端化しております。高温だけでなく突発的な低温にも注意しましょう。

1. 今後の育苗管理について

ハウス内温度は日中30℃以上、夜間は10℃以下にならないようにハウスの「換気」と「保温」に努めましょう。

被覆を張り替えたハウスは、特に曇天続き後に晴天となった場合の温度管理に注意してください。

ハウス内の温度が上昇してからの換気では遅いため、高温が予想される日は早朝から換気を心がけましょう。

育苗期の気温が高く推移したときの注意点は以下の通りです

- (1) 苗の生育が早まり、本田の準備（代かき作業等）に追われて、育苗管理が疎かになってしまう。
- (2) 老化苗・徒長苗になりやすい。
- (3) 老化苗・徒長苗を移植すると、活着不良や除草剤の薬害が出やすくなる。

2. 田植時の初期害虫の防除について

初期害虫の種類と発生量を考慮した箱施薬剤選択が重要です。いもち病常発田や空散未実施地域には、殺虫殺菌混合剤を使用してください。

薬剤の効果を高めるために、

- ① 1箱当たりの散布量（50g）を必ず守る。
- ② 散布前に苗についた露を払い落とす。
- ③ 散布ムラに注意し、均一に散布する。
- ④ 散布後は手で苗を払い薬剤を下に落とす。 の4点をしっかりと実施しましょう。

※昨年、イネドロオイムシ対策で箱施薬剤を使用したにも関わらず、食害されて葉が白くなってしまった圃場では、必ず薬剤を変更してください。



イネドロオイムシ成虫・幼虫

(1) イネドロオイムシの発生が・・・

多い水田 ⇒ フェルテラ箱粒剤 アドマイヤーCR箱粒剤など

少ない水田 ⇒ ワンリード箱粒剤 08 プリンス粒剤 パダン粒剤4 など

(2) 初期害虫+いもち病の常発田

デジタルコラトップアクタラ箱粒剤など

(3) 初期害虫+いもち病、紋枯病の常発田

ブーンレパード箱粒剤、エバーゴルフオルテ箱粒剤など

3. スクミリンゴガイ（ジャンボタニシ）対策

年々、被害地域が広がっています。

密度の高い水田では5月上旬の移植後に被害が出やすい傾向にあります。薬剤防除だけに頼らず、耕種的防除と組み合わせて対応することが重要です。

(1) 耕種的防除

- ・ 田植前にジャンボタニシの捕殺に努め、水田の取水口に5mm以下の金網やネット等を設置し侵入を防ぐ。
- ・ ピンク色の卵は水中に払い落とす。
- ・ 水田の畦畔及び用排水路の雑草を刈り取る。
- ・ 深水部分では被害が多くなりやすいので、丁寧に代かきをおこない均平を図る。
- ・ 稲4葉期までは4cm程度の浅水で管理して、水田内での動きを抑制する。

(2) 防除薬剤

薬 剤 名	使用時期	使用 量	効 果
パダン粒剤4	播種前又は田植当日	60～100 g / 箱	食害防止
	本田初期 (収穫30日前まで)	4 kg / 10 a	
スクミノン	収穫60日前まで	1～4 kg / 10 a	殺 貝 (中貝～成貝)
ジャンボたにしくん	収穫60日前まで	1～2 kg / 10 a	殺 貝 (中貝～成貝)
スクミンベイト3	発生時	2～4 kg / 10 a	殺 貝

注：・貝が大きくなると防除効果が低下します。

・殺貝剤と食害防止剤の併用はお互いの効果を相殺してしまうので、使用する場合は1週間以上間隔を開けてください。

・「スクミノン」および「ジャンボたにしくん」はどちらも有効成分メタアルデヒドを含むため、使用回数（2回まで）に注意しましょう。



ジャンボタニシ成貝



ジャンボタニシ卵塊

4. 雑草防除について

除草剤は登録上の「使用時期」を確認してから散布するようにしましょう。

特に初期剤は田植え前の使用時期【**代かき後～移植7日前まで**】を遵守してください。

(1) 水稻除草剤使用上の注意点

- ア. 水田にどのような雑草が生えるか確認し、除草剤を選択する。
- イ. 田面がデコボコしていると効果にムラが出るので、代かきを丁寧にを行い、田面の均平化を図る。
- ウ. 散布後3～4日間は水を切らさないようにし、除草剤の効果を安定させる。
- エ. **散布後7日間は落水やかけ流しをしない。**

農作業安全 トラクター巻き込み事故注意！ 食の安全安心 使用した農薬、日付、希釈倍数、量を記録用紙に記録

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば

オ. 各薬剤の散布量を守り、薬剤の使用方法をよく読み正しく使う。

カ. 軟弱徒長苗や極端な浅植えは薬害の発生を助長するので避ける。

(2) 薬剤の処理方法

ア. 比較的雑草の発生が少ない水田 ⇒ **一発処理による雑草防除**

初中期一発剤を使って一回で防除する方法。「代かき～田植えまで」の日数を4日以内とし、田植え後10日以内に散布する。

薬剤の使用時期を確認し、適用できるノビエの葉齢までに散布する。

イ. 多年生雑草や雑草の発生量が多い水田 ⇒ **体系処理による雑草防除**

初期剤と初中期一発剤（または中期剤）による2段階で防除する方法。雑草の発生量が多い、または「代かき～田植えまで」の日数が空いてしまう場合などに行う。多年生雑草などは栽培期間中長期にわたって発生が続くので、防除効果の高い体系処理が必要です。

初期剤

ダッシュワンフロアブル、ピラクロンフロアブル、メテオフロアブル、サキドリEW、など

※田植え前の使用時期に注意

初中期一発剤

アシュラ、バッチリLX、エンペラー、プライオリティ、エーワン、カイリキZなど



5. 適正な栽植密度の確保について

「ふさおとめ」や「ふさこがね」は茎数が不足すると減収につながるので栽植密度は18株/m² (60株/坪)とし、移植時期が遅い場合も極端な疎植は避けてください。

「コシヒカリ」の場合は16～18株/m² (53～60株/坪)とし、植え付けが5月中旬～下旬の場合は施肥窒素量を減量し、栽植密度を15.0～16.5株/m² (50～55株/坪)にしてください。

6. 田植え後の水管理について

晴天日には浅水で管理し、活着を促し早期に分げつを確保しましょう。また、低温や強風時合は、深水で管理し保温に努めましょう。天候を無視した深水管理は分げつを抑制しますので避けましょう。

また除草剤（一発剤）散布後3～4日間は水を動かさない。散布7日後までは落水・かけ流しをしないことが除草剤を上手に効かせるポイントです。

7. 千葉県育成水稲新品種「粒すけ」の施肥方法について

初期生育の促進を図り、早期に分げつを確保するために、「コシヒカリ」より基肥窒素を多く施用します。

土性別の施肥基準を参考に、施肥設計を行いましょう。

5月中・下旬移植では、4月下旬～5月上旬移植より10a当たりの窒素を1kg程度減らして栽培します。

(1) 「粒すけ」・「コシヒカリ」の土性・移植時期別の基肥施肥基準 (kg/10a)

	土性	チツソ		リン	カリ
		4月下旬～5月上旬植え	5月中旬植え		
粒すけ	砂質土	6～8	5～7		
	壤質土	3～5	2～4	7～9	8
	粘質土 (房総南部)	2～3	1～2		

	土性	チツソ		リン	カリ
		4月下旬～5月上旬植え	5月中旬植え		
コシヒカリ	砂質土	3～4	1.5～2		
	壤質土	2～3	1.5	7～9	8
	粘質土 (房総南部)	2	1		

(2) 粒すけの施肥を一発型肥料で検討されている方へ

生育・出穂時期を考慮し、コシヒカリ用の一発肥料を基本としますが、砂質土等の窒素肥沃度の低い圃場では、基肥窒素が不足します(注)。

圃場の肥沃度に合わせ、不足分の基肥窒素量を塩安や、一般的な化成肥料で補い、初期生育を確保しましょう。

※注：コシヒカリ専用一発は基肥分と穂肥分の窒素が50%ずつ入っている銘柄が多く、粒すけの穂肥窒素基準3kgに合わせると、基肥窒素も3kgしか施用されません。

(3) 栽植密度のポイント

「粒すけ」は疎植栽培を行うと、穂が大きくなり、一穂粒数が増加しますが、大粒で良好な玄米品質という特徴を引き出しにくくなります。疎植を避け、坪あたり55～60株を目安に移植しましょう。

園芸野菜 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1. はじめに

本年は3月の気温が平年より高めに推移し、一部作物では害虫の発生がやや早い可能性があります。また、4月も継続して気温が高い予報となっていますので、引き続き害虫の発生には特に注意して防除が遅れないよう圃場をよく確認しましょう。

2. キャベツ・ダイコン他アブラナ科(アブラムシ類)

主にダイコンアブラムシ・ニセダイコンアブラムシ・モモアカアブラムシが発生します。ダイコンアブラムシ・ニセダイコンアブラムシは表面に分泌物が付いており、白い粉を被ったように見えます。モモアカアブラムシは赤色または淡い黄緑色をしています。発生が増えると葉の萎縮等の被害が生じます。また、収穫物にアブラムシ類が紛れていると異物混入に繋がりますので、十分に注意しましょう。

○キャベツ アブラムシ類防除薬剤

対象病害虫	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アブラムシ類	29	ウララDF	2000~3000	収穫前日	2回以内
	4A	アドマイヤーフロアブル	4000	収穫7日前	2回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	2000	収穫前日	3回以内
	23	モベントフロアブル	2000~4000	収穫7日前	3回以内

○ダイコン アブラムシ類防除薬剤

対象病害虫	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
アブラムシ類	29	ウララDF	2000	収穫前日	2回以内
	4A	アドマイヤーフロアブル	4000	収穫14日前	2回以内
	4C	トランスフォームフロアブル	2000	収穫前日	3回以内

3. キャベツ・ダイコン他アブラナ科(コナガ・アオムシ)

暖冬傾向の場合は、コナガの発生が想定されます。コナガの幼虫は葉裏～芯に隠れていますので、圃場確認の際は葉をめくって裏側も確かめましょう。

薬剤は同系統の薬剤の連用・多用を避けて使用しましょう。他のチョウ目害虫やアブラムシ類も併発しますので、下記薬剤表の特性などを参考にしながら防除を行いましょう。



コナガ成虫 (体長 10mm)



コナガ幼虫 葉の表面を薄皮一枚残して食害する

○キャベツ チョウ目害虫防除薬剤（コナガ対策）

対象病虫	IRAC コード	薬剤名	希釈倍数	使用時期	使用回数
コナガ アオムシ	6	アフーム乳剤	1000~2000	収穫前日	3回以内
	5	ディアナSC	2500~5000	収穫前日	2回以内
	21A	ハチハチ乳剤★	1000~2000	収穫14日前	2回以内
	UN	プレオフロアブル	1000	収穫7日前	2回以内
	23	モベントフロアブル★	2000	収穫7日前	3回以内
	34	ファインセーブフロアブル★	1000	収穫3日前	2回以内
	30	グレーシア乳剤	2000~3000	収穫7日前	2回以内
		ブロフレアSC	2000~4000	収穫前日	3回以内
	14	パダンSG水溶剤★	1500	収穫14日前	4回以内
	11A	ゼンターリ顆粒水和剤（野菜類）	1000~2000	収穫前日	—
エスマルクDF★（野菜類）		1000~2000	収穫前日	—	

※キャベツ以外のアブラナ科作物は登録内容を確認し使用しましょう。

★の薬剤は使用上のポイントがあります

- ①ハチハチは大型チョウ目には登録がありませんので、タバコガ・ウワバなどが発生した場合には注意が必要です。
- ②モベントはアブラムシ防除、ファインセーブフロアブルはネギアザミウマ防除を兼ねますが、大型チョウ目対策はできません。
- ③パダンはアブラムシ、ナメクジ防除も兼ねます
- ④エスマルクはキャベツはネギアザミウマ、ハイマダラノメイガの登録
- ⑤同系統(同 RAC 番号 薬剤の連用多用は避けましょう。)

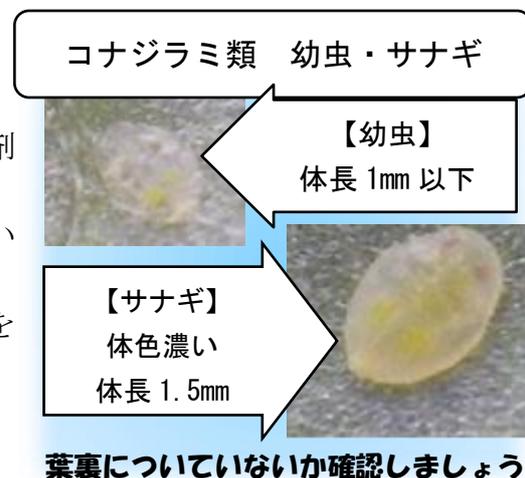
4. トマト

(1) コナジラミ類

県内ではオンシツコナジラミ、タバココナジラミが発生します。葉のすす汚れに加え、タバココナジラミはトマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介する恐れがあります。両種が混在して発生しますが、近年ではオンシツコナジラミの方が多く見られることもあります。以下に示した防除のポイントや、薬剤表を参考にして防除を徹底しましょう。

コナジラミ防除のポイント

- ア. コナジラミ類は主に葉裏に寄生しています。葉裏にも薬剤がかかるよう丁寧に散布しましょう。
- イ. 白い成虫が目につく高さを飛んでいて気が付くことが多いですが、寄生は下葉から始まります。かがんで下葉を返し右のような幼虫・サナギが見つかった場合は、すぐに防除を実施しましょう。
- ウ. 同系統薬剤の連用は避け、ローテーション防除を行いましょう。



果樹(ナシ) 病害虫防除情報

J A全農ちば
営農支援部

1. はじめに

本年も昨年ほどではありませんが平年より開花が早い傾向にあります。幸水も4月上中旬には開花を迎える地域が多いと予想されますので、気象情報に注意しながら樹をよく確認し、農薬の散布タイミングを逃さないようにしましょう。



2. 開花期間の黒星病防除

- (1) 芽基部病斑を確認した場合は摘除しましょう (右図)。
- (2) 開花期間が長引き7日以上にわたる恐れがある場合、トレノックスフロアブルの臨機散布を加えましょう。
散布当日の受粉作業は避けましょう。
- (3) 開花初期のマネージ DF 代替剤について
マネージDFの代わりにアンビルフロアブル (1,000 倍) を散布しても良いですが、その場合は、7月のインダーフロアブルの代わりとして、アンビルフロアブルを使用しないように注意してください。(耐性菌回避のため)
- (4) ニセナシサビダニ対策が必要な園は、表の4月下旬以降を参考に、モベントフロアブル散布を実施しましょう (ただし十分な防除効果を得るため、新梢展葉後に散布する)。

表：4月の防除体系

4月上旬	黒星病・赤星病	マネージDF 6,000倍 または アンビルフロアブル 1,000倍 + トレノックスフロアブル 500倍	21日前/3回 30日前/5回	・トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避および心腐れ症(胴枯病菌による)の防除のため使用する。 ・モンシロドクガ等の食葉性害虫対策は、ダイアジノン水和剤34 1,000倍(14日前/6回)を散布する。
	アブラムシ類	+ ウララDF 2,000倍	14日前/2回	
4月中旬	黒星病	芽基部発病芽の摘除 (交配時に努めて実施)		・交配期間が7日間以上にわたり黒星病の発生が心配される場合に限り、トレノックスフロアブル500倍(30日前/5回)を散布する。受粉当日の散布は控える。
4月中旬 ~下旬	黒星病・赤星病	スコア顆粒水和剤 4,000倍 + トレノックスフロアブル 500倍	14日前/3回 30日前/5回	・トレノックスフロアブルは黒星病の耐性菌回避および心腐れ症(胴枯病菌による)の防除のため使用する。
	アブラムシ類	+ バリアード顆粒水和剤 4,000倍	前日/3回	
4月下旬~ 5月上旬	ニセナシサビダニ・チャ/キイロザミマ・疫病	ハチハチフロアブル 2,000倍	30日前/1回	・疫病の発生が心配される場合はアリエッティ水和剤1,000倍(14日前/3回)を散布する。 ・ニセナシサビダニ被害が激しい場合は新梢展葉を確認してから、モベントフロアブル 2,000倍(14日前/3回)を散布する。

マネージ DF・アンビルフロアブル・スコア顆粒水和剤は DMI 剤 (FRAC : 3) に分類され、同系統の薬剤となります。開花時期の黒星病防除として重要剤ですが、連用・多用すると効果低下の恐れがあるので、トレノックスフロアブルと合わせて使用し、耐性菌発生を防ぎましょう。

農作業安全トラクター巻き込み事故注意！ **食の安全安心**使用した農薬、日付、希釈倍数、量を記録用紙に記録

※ 本資料の無断使用・複写・転載を禁じます JA全農ちば